



平成30年9月20日

外国人ドライブ観光客の移動経路・道外食品企業の誘致促進を説明

～北海道開発計画調査等説明会を開催～

小樽開発建設部では、平成29年度に実施した北海道開発計画調査の成果を後志地域でも活用していただくため、北海道開発計画調査等説明会を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

北海道開発計画調査は、北海道総合開発計画の企画、立案及び推進に必要な調査として北海道開発局が毎年度実施しています。

本説明会は、平成29年度に実施した2件の調査に関する説明、質疑や意見交換を行い、地域の課題解決に向けて、調査成果の今後の広範な活用や地域の連携・協働などを進めることを目的としています。

記

- 1 日 時 平成30年10月10日（水） 13時30分～15時30分
- 2 場 所 余市町中央公民館 301号室（余市町大川町4丁目143番地）
- 3 説明内容 （1）北海道ドライブ観光促進方策検討調査
（2）北海道における「食」の総合拠点づくり検討調査
- 4 対 象 者 自治体職員、観光業関係者、まちづくり団体関係者等（一般の方も参加可能です）
- 5 そ の 他 参加を希望される方は、10月3日（水）までに、別紙「参加申込書」によりお申込みください。

ShiriBeshi
「世界の後志」を目指して

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

地域振興対策官 さとう 佐藤 さとし 智 (0134-23-8035)

上席地域振興専門官 たかぎ 高木 かつひろ 勝博 (0134-23-5153)



小樽開発建設部ホームページアドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>

北海道開発計画調査等説明会

参加申込書

FAX：0 1 3 4－2 3－9 9 0 1

小樽開発建設部 地域振興対策室 行

所 属	
氏 名	
連絡先	

ご記入いただいた個人情報につきましては、説明会に関する事務のために利用させていただきます、それ以外の目的には使用いたしません。

- メールでお申込みの場合は、所属・氏名・連絡先をメール本文にご記入の上、以下のアドレスにお送りください。

メールアドレス：hkd-ot-chiiki@ml.mlit.go.jp

【問合せ先】

〒047-8555 小樽市潮見台1丁目15番5号

北海道開発局 小樽開発建設部 地域振興対策室

担当：上席地域振興専門官 高木

TEL：0 1 3 4－2 3－5 1 5 3

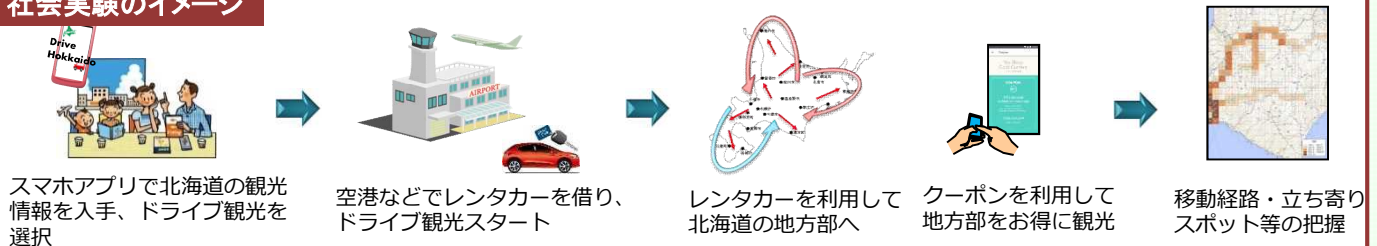
平成29年度北海道ドライブ観光促進方策検討調査

調査の目的・内容

✓ 外国人レンタカー利用者の立ち寄りスポット、移動経路等の把握

- 北海道ドライブ観光促進社会実験協議会（事務局：北海道開発局）では、**地域間・季節間の旅行需要の偏在緩和に向け、主に外国人ドライブ観光客を北海道の地方部へ誘導する社会実験を実施。**
- スマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」やウェブサイト等を活用し、北海道、特に**地方部の魅力的な観光資源や入場料割引等の特典を提供する施設等の情報を効果的に配信して各地への立ち寄りを促すとともに、外国人レンタカー利用者の立ち寄りスポットや移動経路等を明らかにし、その検証結果を今後の観光施策推進に役立てることを目的に実施**

社会実験のイメージ



社会実験の概要

実験期間：平成29年9月1日～11月30日（91日間）
対象地域：札幌市を除く北海道全域
対象者：主にレンタカーを利用する外国人観光客及び外国永住権を保有する日本人
観光情報：339資源
特典提供施設：249施設（札幌市を除く北海道全域から募集）
特典媒体：スマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」
対象言語：英語/中国語（繁体字）

調査結果概要

アプリ利用者の属性

- 実験期間中、**1,211人の外国人観光客が北海道内でアプリ「Drive Hokkaido!」を利用。**（実験期間中の全道の外国人レンタカー貸渡台数19,543台の約6%に相当）
- 国・地域別では**香港、シンガポール、台湾、マレーシアの方が多く利用。**（図1）

周遊・滞在の概況

- レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域も含めて、北海道内各地を広く周遊している。**（図2）
- 滞在については、札幌・小樽・登別など道央の主要観光地や函館・旭川・美瑛・富良野で多いほか、道東では網走・知床・阿寒摩周・釧路・帯広などで比較的多い。旭川・網走より北では、紋別・稚内・利尻島で滞在を確認。（図3）

図1. アプリ利用者の国・地域別構成割合

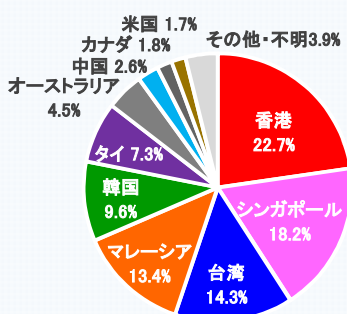


図2. GPSデータ測位者数
(10kmメッシュ表示)

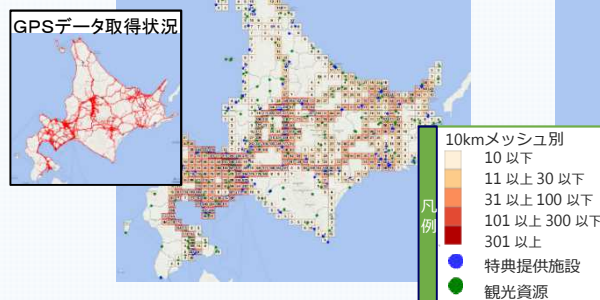


図3. 滞在者数(10kmメッシュ表示)



周遊・滞在の実態

【地方部への誘導(道央圏集中の偏在緩和)】

■ **外国人ドライブ観光客**(本実験におけるアプリ利用者、以下同じ)の**宿泊地について、地方部(道央圏以外)への宿泊割合は42.5%であり、他の移動手段も含む全旅行者データ**(平成28年度北海道庁調査:29.5%)**よりも高い結果**となった。(図4、図5)

■ 平成28年度社会実験対象地域である「**ひがし北海道**」地域において、**当該市町村を訪れた旅行者が30分以上滞在する割合を比較すると、今回は34%であり、平成28年度(27%)よりも高い結果**となった。(平成28年度社会実験:クーポンブックによる特典提供)

■ 全道的な周遊が見られ、**特に主要観光地や幹線道路沿線でGPSデータの測位を多く確認。一方、移動途中の立ち寄りが少なく、一気に広域移動している状況も見られた。**(図2、図3)

【旅行日数】

■ **外国人ドライブ観光客の平均旅行日数は5.8日であった。他の移動手段も含む全旅行者データ**(平成28年度北海道庁調査:3.8日)**よりも長い結果**となった。(図6)

図4. 外国人ドライブ観光客の圏域別宿泊割合

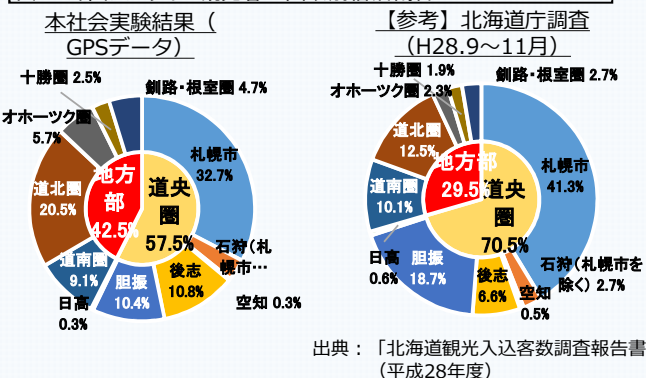


図5. 地方部(道央圏以外)への宿泊割合

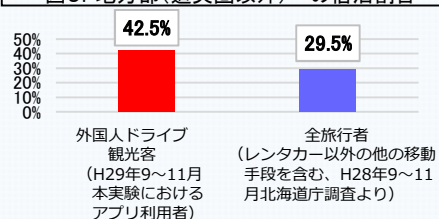
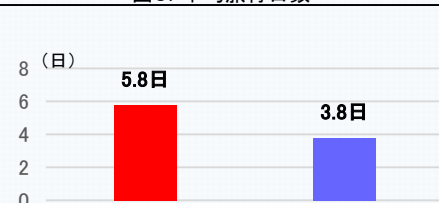


図6. 平均旅行日数

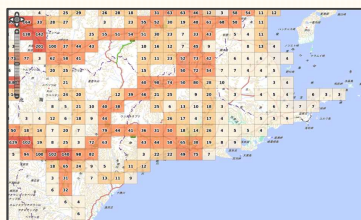


調査結果等を踏まえた取組

株式会社ナビタイムジャパンが運営するスマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」(以下「アプリ」という。)により**外国人観光客の利便性向上に資する情報を発信するとともに、外国人観光客の移動経路等のデータを継続的に把握し、関係機関と共有することで、オール北海道でドライブ観光を促進するための新たなプラットフォームを構築。**

○会員に提供される情報

(株)ナビタイムジャパンが開発したスマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」から得られた外国人観光客に関するデータを提供します。また、プラットフォームにおいて活用するSNSにて地域の観光情報など外国人観光客の利便性に資する情報を発信することが出来ます。



【10kmメッシュ 測位者数】



【10kmメッシュ間流動者数】



【Facebook(フォロワー約36,000人)】

※データサンプル数確保のため、チラシの配布、海外旅行博でのPR、ウェブサイトへのリンクなど、可能な範囲でアプリのダウンロード促進のためのプロモーションに御協力いただくこととしております。

本プラットフォームに参加を希望される団体等は、北海道開発局ホームページに掲載しております「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」をご覧ください。

URL: <http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001bhbxb.html>



北海道における「食」の総合拠点づくり検討調査

調査期間：平成28年度～平成29年度

【調査の背景】

北海道の「食」の高付加価値化を図り、雇用創出及び地域経済への波及効果を高めるために、道の農業界と経済界が連携し、北海道を中心とする新たな食のバリューチェーンの構築を図ることが必要

【調査の目的】

北海道外等からの食品企業の誘致を促進し、「食」の総合拠点づくりを推進するため、検討会の開催、道外等の食品企業への情報発信並びに意見交換会を実施し、課題の整理を行うとともに今後必要な取り組みについて検討を行う。

検討会・WGの開催（H28年度）

北海道内での食のバリューチェーン構築に関する課題の把握と、今後必要な取組を検討するため、食に関する関係機関が集まり検討会を設置。更に、個別の課題を検討するためにワーキンググループを設置し北海道農業の強みを生かす食品企業の誘致を検討

【参加組織】

- ・北海道経済連合会
- ・北海道（農政部・経済部）
- ・国土交通省北海道開発局
- ・北海道農業協同組合中央会
- ・農林水産省北海道農政事務所
- ・ホクレン農業協同組合連合会
- ・経済産業省北海道経済産業局

【食のバリューチェーン構築のための検討会】

第1回 (H28.7.8)	・北海道における食のバリューチェーンに関する現状・課題等について
第2回 (H28.11.22)	・企業、自治体との意見交換による課題のとりまとめ ・冊子による情報発信について
第3回 (H29.3.17)	・アンケート調査結果報告 ・H29の検討事項について

【食の総合拠点づくり課題検討WG】

第1回 (H28.8.30)	・検討課題の提案 ・道内立地企業との意見交換
第2回 (H28.11.4)	・道内2自治体との意見交換 ・食品企業へのアンケート調査
第3回 (H29.2.16)	・道外食品企業へのアンケート調査果の概要 ・H29年度の調査について

調査内容（H28年度）

◆道内進出食品企業との意見交換の実施

- ・道内に進出した3企業との意見交換を実施。北海道に進出した理由やメリット、課題などを把握し、食品産業の中で本道が優位性のある分野を整理。

◆自治体との意見交換の実施

- ・企業誘致の先端的な取組を行う道内2市との意見交換を実施。自治体から見た企業誘致への課題や必要な支援・方策などを整理。

◆道外食品企業へのアンケート調査・企業ヒアリングの実施

- ・道外食品企業1,000社に対し、①原料としての農産品ニーズ ②生産拠点の設置意向や課題 ③加工地などの表示について、アンケート調査を実施。さらにアンケート回答企業を訪問し、進出先として北海道の可能性をヒアリングし、優位性と課題を整理。



企業訪問

◆北海道の農畜産品、食品加工に関する情報を発信

- ・北海道農業の特色や主要農産物の種類、食品産業への支援、物流ネットワークなどを紹介する「農産物食材カタログ」を作成し、道外食品企業等に向けて情報発信。
- ・道外食品企業の道内への誘致を促進させる機運醸成のため「食の総合拠点づくりシンポジウム～北海道の農産物の強さと可能性～」を札幌で開催(H29.2.3)



食材カタログ



シンポジウム

検討会・WGの開催（H29年度）

平成28年度に引き続き、北海道内での食のバリューチェーン構築に関する検討を行うため、関係機関による検討会とWGを実施。調査の中で明らかになった課題などについて検討するとともに、「食」の総合拠点づくりの効果的な進め方や取組内容について、「方策」として取りまとめた。

【食のバリューチェーン構築のための検討会】

第4回 (H29.9.25)	・地域ヒアリングの実施状況について ・今後のスケジュールについて
第5回 (H30.3.26)	・現地視察と意見交換会について ・方策(案)について

【食の総合拠点づくり課題検討WG】

第4回 (H29.8.25)	・地域ヒアリングの実施状況について ・今後のスケジュールについて
第5回 (H30.2.23)	・現地視察と意見交換会について ・方策(案)について

調査内容（H29年度）

◆道外の食品企業を招聘し現地視察と意見交換会を実施

道外食品企業等に道内の生産現場を視察して頂き、企業の視点で地域の優位性と課題について、客観的な意見を頂くことで「食」の総合拠点づくりの効果的な進め方や取組について検討を行う。

【地域ヒアリングの実施】

- ・現地調査と意見交換会を実施するに当たって、モデル地域として「富良野市」「当別町」「北見市」を設定。
- ・各モデル地域毎に、自治体、農協、商工会議所など企業誘致に関係する団体が地域の優位性や強み、課題等を話し合う「地域ヒアリング」を実施。
- ・地域の地域特性を踏まえた「企業誘致の方向性」（コンセプト）を描いた。



【現地視察・意見交換会の実施】

	富良野市	当別町	北見市
企業誘致の方向性	全国的に有名な「ふらのブランド」農産物を活用した食品加工企業の誘致を進め、農産物の活用により観光も含め企業誘致。	空港や港湾などとの物流アクセスの充実、周辺市町村からの農産物供給が可能である地の利、札幌圏に隣接している強みを活かした企業誘致。	タマネギをはじめとした多様な豊富な農産物と機能性や希少性をキーワードとして大学や研究機関との共同研究開発による企業誘致
視察先	・玉ねぎエチレンガス貯蔵庫、人参果汁濃縮工場など	・ライスターミナル、道の駅「北欧の風」など	・オホーツク財団、タマネギ選果場 など



エチレンガス貯蔵庫視察



オホーツク財団視察

- ・企業立地の横断的組織「富良野市企業誘致推進連絡会議」（H30.2）が設置された。
- ・視察業者の穀物焙煎業者（静岡県）と当別町商工会の間で加工米の取引がスタートした。

◆「北海道食品企業立地セミナーin東京」を実施

- ・道外の食品企業等を対象に北海道への企業立地促進の機運醸成を図るため、北海道の農産物の魅力や食と農の最新の取組を紹介する「北海道食品企業立地セミナーin東京」を開催。1部は有識者による基調講演や、有識者と生産者、食品企業等によるトークセッション、第2部は道産食材を使った料理を試食して頂きながら交流会を開催。自治体等がブース出展して特産品などをPRを実施。

- 日 時：平成30年1月23日（火）
15:00～18:45
- 場 所：ステーションコンファレンス万世橋
（東京都千代田区神田須田町）
- 参加者：約120名



第1部トークセッション



第2部 自治体ブース



第2部 PRステージ

まとめ

2年間の調査結果を踏まえ、道外の食品企業から見た北海道の優位性と課題を整理し、地域において効果的な「食」の総合拠点づくりの進め方や取組の内容などを「方策」として取りまとめた。

- 北海道の優位性は、「原材料の質の良さ、安定確保」「北海道ブランド」「残渣物処理や工場騒音など環境に制約されない」など。
- 主な課題は「農産物や生産地の情報不足」「原材料の確保」「人材・労働力の確保」「市場から遠隔地であること」「物流の高コスト」「エネルギーの高コスト」「災害リスク」の7項目。それらの課題毎に、対応の方向性や着眼点などを整理。

＜進め方＞

関係機関による体制を構築

地域独自の「企業誘致の方向性」を描く

視察と意見交換をセット化

誘致活動